科目名			担当教員	
生涯発達心理学			中村　修	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
FD2502 FD2563	4	1（注）	RorSR（講義）	1年以上
生成AI利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。
※2018年度以降に入学した方は、「発達心理学」（科目コード：FD3543、2単位、履修方法：RorSR）を参照してください。
（注）2019年度のスクーリングより、スクーリング単位1単位（8コマ）に変更されました。
科目コード　FD2502　2018年までのスクーリング受講者（スクーリング単位2単位）
FD2563　上記以外の方（スクーリング単位1単位）

科目の概要

■科目の内容

「人が発達する」とは、何がどうなることを言うのでしょうか？　そして「人が発達する期間」はいつからいつまでなのでしょうか？　さらに「人を発達させる要因」はどのようなものなのでしょうか？

この科目では大きくこのような疑問に対して答えを探していくことになります。発達心理学は「生涯発達心理学」と呼称されることがありますが、この名称に示されるように、発達する期間は「生涯、一生の間」と考えるのが現在の通例です。では生涯という視点で人を理解するとはどのようなことでしょうか？「子ども」「大人」「高齢者」といった年齢区分ごとの理解に留まらず、「これまで・現在・これからのつながり」「積み重ね」を考えながら人を理解するということを考えてみましょう。

■到達目標

1）発達の過程の中で、認知機能・感情・自己・社会性・対人関係などの発達の諸側面がどのように変化していくか説明することができる。
2）幼児期、青年期、老年期といった発達の各時期の特徴を簡潔に説明することができる。
3）発達心理学で用いられる基本的な概念、用語を理解し、自分及び周りにいる人々の姿・行動から事例として適切なものを選択して具体的に説明することができる。
4）発達障害等非定型発達についての基礎的な事項を説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人間理解力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■教科書・参考図書

【教科書】

坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子著『問いからはじめる発達心理学　改訂版ー生涯にわたる育ちの科学』有斐閣、2024 年

（最近の教科書変更時期）2025 年 4 月

（スクーリング時の教科書）上記教科書を必ず持参ください（2025 年度は改訂版を所持していない場合も受講に支障がないよう講義を行います）。

【参考図書】

１）二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次編『ガイドライン　生涯発達心理学（第２版）』ナカニシヤ出版、2012 年

２）岡本祐子・深瀬裕子編著『エピソードでつかむ生涯発達心理学』ミネルヴァ書房、2013 年

３）鈴木忠・飯牟礼悦子・滝口のぞみ著『生涯発達心理学　認知・対人関係・自己から読み解く』有斐閣、2016 年

４）開一夫・斎藤慈子編著『ベーシック発達心理学』東京大学出版会、2018 年

５）本郷一夫編『発達心理学　公認心理師の基礎と実践』遠見書房、2018 年

６）高橋一公・中川佳子編著『生涯発達心理学 15 講（第３版）』北大路書房、2019 年

７）林創編著『発達心理学　公認心理師スタンダードテキストシリーズ 12』ミネルヴァ書房、2019 年

８）水野里恵著『発達心理学　公認心理師ベーシック講座』講談社、2021 年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

発達という概念はつかみやすいようでとらえづらいかもしれません。スクーリングでは、発達という概念のそもそもの部分の説明と、生涯を区分した発達期ごとの説明を行っていきますが、区分してあると言っても一人の人間が生涯にわたって発達していくという「つながり」はあるわけです。前後の時期のつながりもあれば「積み重なっていくもの」もあるでしょう。せっかくのスクーリングの機会ですから、教科書のページ通りではなくあちこち行ったり来たりしながら講義することで、「区分しつつ、つなげて理解する」という背反したことを目指していきます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	発達するとはどういうことか、何が発達をもたらすのか	発達とはどういうことを意味するのかについて、昔の発達心理学と現在の生涯発達心理学での考え方の違いを明確にする。 また、発達の要因として遺伝と環境及びそれらの相互作用について理解する。
2	乳幼児期①：乳児ー養育者間コミュニケーションと愛着の発達	対人関係の観点からの乳児期の発達の理解を行う。 特に愛着の発達について、愛着形成の過程及び愛着の個人差について理解する。
3	乳幼児期②：認知機能の発達	代表的な発達理論の 1 つであるピアジェの発達理論に基づいて、特に幼児期の認知発達について理解する。
4	青年期の発達：自己認知とアイデンティティ	自己の発達について、エリクソン及びマーシャの言説に基づき、アイデンティティとか何かを理解する。

5	成人期：キャリア発達	特にキャリア発達という観点からの成人期の発達を理解する。 特に、①アイデンティティの再体制化とは何か、②世代性とは何かを理解する。
6	老年期：サクセスフル・エイジングとは	老年期における認知機能の変化及び補償、パーソナリティの発達、サクセスフル・エイジングの条件について理解する。
7	発達のつまずき	発達障害とその臨床・支援について概略的な理解を行う。
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

配付資料と教科書をもとに、板書をしながら進めます。具体的な事例を提示する際には動画を用います。

■スクーリング　評価基準

特に到達目標記載内容についての理解を問います。スクーリング中に学んだことを活用して答えなければならない問題を出題します（ノート、教科書、配布資料持込可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

スクーリング講義内容として示した９回は、基本的に教科書の章単位でまとまりが作られています（複数章にまたがる場合があります）。どの回がどの章なのか事前に対応させる作業を行い、それぞれの回のキーワードをチェックしておいてください。

レポート学習

■在宅学習 30 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	発達するとはどういうことか① （序章、1 章―2）	生涯発達はどういうことと考えられているか キーワード：バルテス、エリクソン、生涯発達、獲得と喪失、多次元性、多方向性、発達の可塑性	発達とは何か、現在の「生涯発達心理学」では発達をどのように考えているかを理解する。
2	発達するとはどういうことか② （1 章―3、4、5）	発達は何によってもたらされるか キーワード：遺伝的要因、環境的要因、相互作用、ブロンフェンブレナー、生態学的システム	①発達の要因として、遺伝と環境及びそれらの相互作用について理解する。 ②環境要因の下位区分について理解する。
3	ピアジェの発達理論 （3 章―1）	ピアジェの発達理論の全体像と特に感覚運動期 キーワード：ピアジェ、シェマ、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期	代表的な発達理論の１つであるピアジェの発達理論について、 ①基本的な用語を理解する。 ②設定された発達段階の特徴について理解する。
4	乳児期①：アタッチメントの発達 （4 章―3、4）	アタッチメントの発達 アタッチメント、分離不安、安全基地、ストレンジ・シチュエーション、気質、基本的信頼感	アタッチメントの発達について、 ①アタッチメントとは何かについて理解する。

			②アタッチメントの発達の流れについて理解する。 ③アタッチメントの個人差について理解する。
5	幼児期①：言葉と表象 （5 章―1、2、3）	言葉の発達の基盤 キーワード：表象、ごっこ遊び、喃語、共同注視、初語、統語、外言、内言	①ことばの発達のプロセスについて理解する。 ②言葉が発達するためには何が必要となるのか理解する。 ③言葉の発達と思考の発達の関係を理解する。
6	幼児期②：自己の発達 （6 章―1、2、3、4）	自己の発達、特に自己の芽生えについて キーワード：自己感覚、自己、主体、客体、第一次反抗期、自己主張期、概念的自己	①自己の芽生えとはどういうことか理解する。 ②自己にもさまざまな側面があることを理解する。 ③第一次反抗期が生じる理由について理解する。
7	幼児期③：社会性の発達と心の理論 （7 章―1、2）	社会性の発達、特に他者の意図の理解について キーワード：心の理論、誤信念課題、うそ、道徳的判断、コールバーグ、共感性、向社会的行動、実行機能	①心の理論とはどういうことか理解する。 ②道徳的判断の発達について理解する。 ③共感性の発達について理解する。
8	児童期①：認知・思考の発達 （8 章―1）	児童期の認知機能の発達、特に脱中心化という観点から キーワード：前操作期、自己中心性（中心化）、保存課題、3 つ山課題、脱中心化、具体的操作期	①ピアジェ理論に基づき、児童期の思考の発達の特徴について理解する。 ②自己中心性及び脱中心化について理解する。
9	青年期の発達①：自己認知 （改訂版：9 章－1，2，3，4） （初版：9 章―1、2）	青年期の発達、特に青年期初期の自己理解の変化という観点からキーワード：第二次性徴、思春期スパート、自己理解、時間的展望、	①青年期における身体的変化の特徴について理解する。 ②自己に対する視点の持ち方と自己否定的感情の高まりについて理解する。
10	青年期の発達②：友人関係 （改訂版:9 章―5 前半） （初版：9 章―3、4）	青年期の発達、特に同年代他者との関係から キーワード：友人関係、関係性攻撃、恋愛	①友人関係の発達について理解する。 ②友人関係が自己理解、自己形成にどのように影響するか理解する。
11	青年期から成人期へ①：アイデンティティの発達 （10 章―1、2）	青年期の発達、特にアイデンティティの形成という観点から キーワード：エリクソン、アイデンティティ、モラトリアム、マーシャ、アイデンティティ地位	①エリクソンの言説に基づき、アイデンティティとか何かを理解する。 ②マーシャの「アイデンティティ・ステイタス論」に基づき、アイデンティティの形成プロセスについて理解する。 ③成人期以降のアイデンティティの変化について理解する。
12	成人中期・中年期①：生成継承性（世代性）、キャリア発達 （改訂版：11 章―1，2，3） （初版：11 章―1、2）	成人中期の発達、特にキャリア発達の観点から キーワード：生成継承性（世代性）、キャリア	成人中期の発達的変化について、 ①生成継承性（世代性）とは何かを理解する。 ②キャリア発達とは何かを理解する。

13	高齢期：老いの意味と認知機能の変化 （12 章―1、2）	高齢期の発達、特に認知機能について キーワード：エイジズム、流動性知能、結晶性知能、超高齢期、補償、最適化、知恵	①エイジズムとはどういうことか理解する。 ②知能の発達的変化について理解する。 ③認知機能の補償とは何か理解する。
14	発達のつまずき① （13 章―1、2）	発達のつまずき、特に神経発達症（発達障害）の理解 キーワード：神経発達症（発達障害）、自閉スペクトラム症、ADHD、限局性学習症（学習障害）、個別支援、環境調整、二次障害	①発達のつまずきとは何かについて理解する。 ②神経発達症(発達障害)の正しい定義を理解する。 ③神経発達症（発達障害）の臨床・支援について理解する。
15	1 回目から 14 回目までの振り返り	生涯にわたる発達的変化のまとめ	①幼児期、青年期等の時期ごとの特徴を他の時期と比べて明確に説明できるようにしておく。 ②幼児期、青年期等などの時期ごとではなく、「認知機能」「自己」「愛着」「社会性」といった発達の諸側面が生涯という大きな流れの中でどう変わっていくのか整理する。
16	発達するとはどういうことか③ （1 章―1）	発達とはどういうことと考えられてきたか キーワード：発達観、発達のゴール、上昇的変化	①発達とはどういうことかを理解するうえで、昔の発達心理学における発達の考え方を理解する。 ②昔の発達心理学における発達の考え方と現在の生涯発達心理学での発達の考え方の相違点を明確にする。
17	胎児期 （2 章）	胎児の特徴 キーワード：五感の発達、胎児運動、出生前診断	①母親の胎内にいる間に胎児にはどのようなことができるようになっているのか理解する。 ②胎児にとっての主たる環境要因となる母親に生じる変化について理解する。
18	乳児期② （3 章―2、3）	認知機能の観点からの乳児期の発達キーワード：目と手の協応、選好注視法、馴化―脱馴化法、対象の永続性	①ピアジェによる感覚運動期の説明に基づいて乳児期の発達を理解する。 ②乳児に対して用いられる心理学研究法を理解する。
19	乳児期③：乳児―養育者間コミュニケーション （4 章―1、2）	対人関係の観点からの乳児期の発達 キーワード：ベビースキーマ、生理的微笑、社会的微笑、直感的育児	乳児の対人関係形成の基盤について理解する。
20	幼児期④：遊びの発達 （5 章―4）	遊びの発達 キーワード：機能遊び、象徴遊び、並行遊び、連合遊び、協同遊び	①ことばの発達と遊びの発達の共通の基盤を理解する。 ②遊びの発達の流れ、遊びの変遷を理解する。
21	幼児期⑤:社会性の発達、仲間関係 （7 章―3）	社会性の発達、特に幼児期・児童期の同年代関係について キーワード：ギャング・グループ、社会的比較、ねたみ	幼児期・児童期の仲間（同年代他者）との関係の中でみられる社会性の発達を理解する。
22	幼児期⑥：自己制御の発達 （6 章―5）	自己の発達、特に自己制御について キーワード：自己制御、自己主張、自己抑制、しつけ	①自己制御の発達について理解する。 ②自己制御の個人差とそれに影響する要因について理解する。

23	児童期②：認知機能の発達 （8 章―2、3、4）	児童期の認知機能の発達、特にメタ認知という観点から キーワード：短期記憶、長期記憶、ワーキングメモリ、動機づけ、メタ認知	①記憶の仕組みについて理解する。 ②動機づけの種類について理解する。 ③メタ認知とは何か理解する。
24	青年期の発達③：親子関係 （改訂版:9 章－5後半） （初版：9 章―5）	青年期の発達の理解、特に異年代との関係から キーワード：心理的離乳、脱衛星化、自立、	青年期における親子関係の変化について、 ①心理的離乳という概念 ②親子関係の変化を「対立的」とのみ捉えてよいか、よくない場合にはどのようなとらえ方が可能なのかを理解する。
25	青年期から成人期へ②：キャリアの選択 （改訂版：10 章―3，4） （初版：10 章―3）	青年期から成人前期の発達の理解、特にキャリアという観点から キーワード：キャリア	キャリア形成という観点から「青年期から成人期への移行」について理解する。
26	成人前期 （改訂版：10 章―5） （初版：10 章―4、5）	成人前期発達の理解、特に家庭生活という観点から キーワード：生涯未婚率、ライフコース	ライフコースの選択と見直しという観点から成人期前期の発達、及びその時代的変遷について理解する。
27	成人中期・中年期②：親として、子としての発達 （改訂版：11 章―4，5，6） （初版：11 章―3、4、5）	成人中期発達、特に親役割の変化という観点から キーワード：養護性、親としての成長、子どもの自立、夫婦関係の見直し、介護、ジェネレイショナル・ケア	成人中期発達的変化について、 ①親であり配偶者であり子どもでもある自己の変化 ②子どもと配偶者と親との関係の変化を理解する。
28	高齢期②：パーソナリティの発達､サクセスフル･エイジング （12 章―3、4、5）	高齢期の発達の理解、特に「人生の統合」という観点から キーワード：ライフレビュー、老年的超越、サクセスフル･エイジング、ソーシャルネットワーク、コンボイ、死生観	①老年期のパーソナリティの発達について理解する。 ②エリクソンの言う「統合対絶望」という心理社会的危機について理解する。
29	発達のつまずき② （13 章―3、4、5）	発達のつまずき、ある発達期に特徴的なつまずきの理解 キーワード：リスク要因、防御因子（プロテクト要因)、認知症、	①発達期のそれぞれに特有のつまずきについて理解する。 ②発達の可塑性について理解する。
30	16 回目から 29 回目までのふり返り	生涯にわたる発達的変化のまとめ	①1 回目から 14 回目で学んだ発達の各時期、発達の諸側面の内容と 16 回目から 29 回目までの内容を結び付けておく。 ②幼児期、青年期等の時期ごとの特徴を他の時期と比べて明確に説明できるようにしておく。 ③幼児期、青年期等などの時期ごとではなく､「対人関係」「同年代関係」「異年代関係」といった発達の諸側面が生涯という大きな流れの中でどう変わっていくのか整理する。

■レポート課題

1 単位め	乳児期から幼児期の発達における「養育者―子相互作用」の重要性についてまとめよ。 その際、少なくとも「愛着の発達」「言語の発達」という 2 つの側面からまとめること。
2 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
3 単位め	発達とはどういうことか。発達に関する心理学が昔の「発達心理学」から現在の「生涯発達心理学」へと変わっていった経緯を踏まえつつ、現在の生涯発達心理学では発達をどう考えているか説明しなさい。
4 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポートを書き始める前に、教科書や参考書の該当する箇所をよく読んで理解しておくということが第一に重要です。課題に取り組む前に、少なくとも教科書については精読し、内容をつかんでおいてください。教科書及び参考書の中から必要な部分がどこかを考え、課題にそって構成を組み立てるという作業が必要です。教科書 1 つをとってもある事柄が説明されている箇所は 1 か所とは限りません。複数の説明を見比べて、それらの共通点または相違点はどうなるのかを考えてみると、「説明の抜書き」ではない「自分のオリジナルの説明」となるでしょう。そのためには、全体として何を書くかというストーリーを最初に描いておくことも大切です。

【1 単位めアドバイス】

この課題は「4 章」「5 章」が中心となりますが、「2 章 3」「13 章 3」なども踏まえる必要があります。「愛着の発達」については、ボウルヴィが提唱したアタッチメント概念の説明が中心になります。それに加えて、「乳児と養育者の関係形成の端緒」「関わりの中で乳児に芽生える自己」「養育者と子の安定した関係をベースにして広がる対人関係」「養育者－子の不安定な関係が生み出す問題」など、多岐にわたる事柄を含めることのできる課題です。また、ボウルヴィの考えだけでなく、エリクソンが乳児期の心理社会的危機として設定した「基本的信頼感対不信」を説明に取り入れて発達の最初期の養育者－子相互作用の重要性を強調するのも 1 つの手です。まずは中心となる部分をしっかりとまとめたうえで、関連する部分についても触れてください。「言語の発達」については、「5 章 2」から言語発達の基盤として特に養育者がどのような役割を果たすのかについて説明してください。言語発達と関わる様々な側面の中で「養育者―子相互作用」という課題テーマに関わる部分をうまくまとめることができるかがポイントとなります。

なお、課題にて「母子相互作用」と書かずに「養育者―子相互作用」と書いてある意味をよく考えていただければと思います。旧教科書の方は、「5 章Ⅱ」における社会性・情緒面の発達的変化」が中心となりますが、「3 章Ⅲ」「4 章Ⅱ」「9 章Ⅲ」なども踏まえる必要があります。

【3 単位めアドバイス】

この課題は教科書の「1 章」が中心となりますが、「序章」「12 章 2」なども踏まえる必要があります。

この課題では、発達についての考え方の変遷をふまえて、発達とはどのようなことなのかを説明することが求められています。科目名でもある「生涯発達心理学」ですが、人間の発達についての心理学が生まれた最初からこの名称だったのではなく、当初は「発達心理学」という「生涯」がつかない名称でした。そして「発達心理学」から「生涯発達心理学」へという名称の変化は、単に「生涯」をつけたかつけないかということにとどまらず、そもそも「発達とは何か、発達とはどのようなものか」という考え方が変わったのです。このことを踏まえて、過去に言われていた発達の定義はどういうものか、その定義にはどのような問題点があったのかといった点を整理しながら、現在の生涯発達心理学で用いられている発達の定義・捉え方へと展開していくことが望ましい形式となるでしょう。なお、生涯

発達心理学での発達の定義・捉え方の説明では、バルテスという生涯発達心理学者と「獲得」及び「喪失」という概念を説明に加えるようにしてください。

なお、教科書にも定義がありますが、他の文献も参照して、自分のしっくりくる説明を探してみましょう。また、いわゆる国語辞典に載っている「発達」の字義・定義と、心理学でいう（心理学辞典・事典に載っている）「発達」の定義を比べてみるのも「発達とはどういうことか、の考え方の違い」に気づくきっかけになるかもしれません。

【2・4単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

■レポート　評価基準

内容の評価以前に、レポートの書き方の問題として、「引用文献の用い方」について十分注意してください。『学習の手引き』の「レポート学習」に記載している「『引用』と『要約』のルール」の欄をよく読んで、「どこからどこまでが何からの引用なのか」がはっきりと分かるように書いてください。この点がうやむやであったり明らかな間違いがあったりするレポートは再提出としています。なお「教科書に書いてある文章を一部抜粋してそのまま書く」のは「自分なりの要約」ではなく「引用」となります。

科目修了試験

■評価基準

１）科目修了試験は、教科書全般にわたって出題されます。

２）教科書の内容をしっかり理解していれば書ける問題です。教科書の中で、重要な意味をもつ言葉（キーワード）が正確に説明できているかが大きな採点のポイントになります。キーワードをよく確認しておきましょう。

３）学んだ概念・キーワードについて、自分及び周りにいる人々の姿・行動から事例として適切なものを選択して解答におりこむことができると評価が高まります。